

2013年1月24日

## 2013年度 野球規則改正

日本野球規則委員会

(1) 巻頭「フェアボール」第2図の説明を次のように改め(下線部を改正) 図を変更する。

バウンドしながら内野から外野へ超えて行く場合には、一塁または三塁を基準として判断すべきであって、一塁または三塁を過ぎるときに、フェア地域内かまたはその上方空間にあった場合は、その後ファウル地域に出てもフェアボールである。

(2) 巻頭「ファウルボール」第8図の説明を次のように改め(下線部を改正) 図を変更する。

バウンドしながら内野から外野へ超えて行く場合には、一塁または三塁を基準として判断すべきであって、一塁または三塁を過ぎるときに、ファウル地域内かまたはその上方空間にあった場合は、ファウルボールである。

===>(説明)

1塁3塁のゴロの打球で基準が「ベース全体」となる。

ゴロの打球のフェア/ファウルの判定は、

「一塁、三塁ベースの外野側の辺とファウルラインの交差する角」を基準としていましたが、「ベース全体」が基準となります。

従来、ベースに当たった時のみフェアでしたが、ベース上を通過してもフェアとなります。

(3) 1.10(b)を次のように改める。(下線部を改正)

バットの先端をえぐるときには、深さ1 1/4 ｲﾝﾁ (3.2 ㄷ)以内、……

(4) 1.17【注3】の「(アマチュア野球では7平方ㄷ以下でなければならない)」を削除する。

(5) 2. 3 2【注1】後段を次のように改める。(下線部を改正)

また、打者が打ったり、バントしたボールが反転して、まだバッターボックス内にいる打者の身体およびその所持するバットに触れたときも、打球がバットまたは身体と接触した位置に関係なく、ファウルボールである。

===> (説明) 自打球などの判定の変更

打者に自打球などが当たった場合、片足のみ打席から出ていたらファウルとなっておりますが、アウトとなります。

(6) 3. 0 5 (d)を追加する。

(d)すでに試合に出場している投手がインニングの初めにファウルラインを越えてしまえば、その投手は、第1打者がアウトになるかあるいは一塁に達するまで、投球する義務がある。ただし、その打者に代打者が出た場合、またはその投手が負傷または病気のために、投球が不可能になったと球審が認めた場合を除く。

(7) 3. 1 5【原注】の「例」以下を7. 1 1【注2】とし、7. 1 1【注】を【注1】にする。

(8) 7. 0 8 (a)の「ベースライン」を「パースパス」に改める。

(9) 8. 0 1 (a)【注1】を次のように改め、同(b)【注】を削除する。また、巻頭jの「投球姿勢」を変更する。

アマチュア野球では、投手の軸足および自由な足に関し、次のとおりとする。

(1) 投手は、打者に面して立ち、その軸足は投手版に触れて置き、他の足の置き場所には制限がない。ただし、他の足を投手版から離して置くときは、足全体を投手版の全縁の延長線より前に置くことはできない。

(2) 投手が(1)のように足を置いてボールを両手で身体の前方に保持すれば、ワインドアップポジションをとったものとみなされる。

===> (説明) 軸足は投手版に触れていれば、はみ出してもOK

アマチュアでは、投手は軸足を「投手版の側方にはみださない」こととなっておりますが、2008年に改正されたプロと同様、「軸足が投手版に触れていれば、はみ出しても可」。

(10) 10.10 (a) の「ただし、そのプレイでアウトが成立していなければデフレクトした野手に失策が記録されたであろうと記録員が判断した場合は、この限りではない。」を削除する。

以上